



こんにちは。私はウズベキスタンから参りましたイネッサと申します。今年の9月までさいたま市の国際交流基金日本語国際センターで「日本語教育指導者養成プログラム」の日本語修士コースで勉強しております。ウズベキスタンでは日本人材開発センターというところで日本語を教えています。

私たちは皆ウズベキスタン生まれでロシア系の人間です。私には従妹が2人おり、下の従妹、Anna (アンナ)は今年の3月23日に27歳になった医学大学卒です。この頃私たちみんなアンナの命を心配し始めました。アンナは1987年に突然1型糖尿病になってしまい、ずっととても悪い状態で苦しんでいます。旧ソ連が破壊しウズベキスタンが独立して以来、インスリンを始めいろいろな薬が手に入らず、そして治療してもますます悪化しているという状況の中で、元々医療関係に勤めるアンナの家族がいくら頑張っても、彼女を助られない現状に至りました。インスリンが手に入らない為に、様々な合併症が出てきてしまっています。アンナはここ数年間、いろいろな糖尿病性の合併症でかなり落ち込んでいる様子です。レントゲン科医になりたいアンナは、そんな状況でも頑張って大学院の勉強、そして医学大学に所属している病院のレントゲン部の実習に通っていますが、今の状態ではそれを続けることが難しくなってきました。眼力も2000年からほとんどゼロに下がってしまい(それ以来モスクワなどで9つの手術を受けましたが)、最近では腎臓の状態もひどくなってきて「腎不全」になりつつあります。最近では腎不全の症状である、吐き気や諸々の尿毒症の症状を起こしているのですが、その症状を緩和する薬もウズベキスタンでは手に入れることができません。どうしても自分の娘を助けたいアンナのお母さんは(写真参照)、アンナの延命策を講じようとして、いろいろな新しい治療法や薬などを探しながら、病状が今以上に悪化しないよう祈っています。現在、アンナを診てくれている医師によると、腎臓の移植以外に彼女が助かる方法はないとのことですが、私たち家族全員はまだまだいろいろな方法があると願って必死に探しております。アンナはまだ27歳ですし、これから彼女の人生の中には、こんなつらい病気の経験だけでなく、いろいろな嬉しく、幸せなことも経験して欲しいからです。ウズベキスタンでは彼女のお母さん、お姉さんができる限りのこと(薬やお医者さん探しなど)をしていますが、私自身も日本にいる間に、日本で得られる情報を駆使して、何とかアンナを助けてあげたいと思っています。どうぞ皆様のご協力をお願い致します。



アンナちゃん



自分のお母さん(左)とおばあさんと一緒に

自分のお母さん(左)とおばあさんと一緒に

自分のお母さん(左)とおばあさんと一緒に

メニバイエヴァ・イネッサ (ウズベキスタン)